

さすてな
すとりー

Sustainable story for our future

持続可能な社会の実現や社会課題の
解決へ向けた取り組みをご紹介します。



NPO法人エデュケーションエキューブ
ー子ども達が自分らしく幸せに生きていける社会にー

今回は、経済的格差が教育格差につながるという社会課題を解決することを目指し、子ども達に新しい学びの機会を提供しているNPO法人エデュケーションエキューブの草場 勇一代表にお話を伺いました。

★エデュケーションエキューブの
設立の経緯を教えてください。

私は20年間に渡り、ベンチャーキャピタル業界でスタートアップ企業への投資や事業支援を行ってきました。その中で、経営戦略や資金調達、人材育成に関する知見を蓄積しました。一方で、個人的な経験として、高校時代に親が離婚し、経済的に厳しい状況の中、奨学金を活用して大学を卒業しました。この経験から「経済的事情に左右されず、誰もが学べる環境をつくりたい」という思いが生まれ、2013年にNPO

スタディプレイス校長
にこちゃん



2



1



3



4



5

1.スタディプレイスの授業風景／2.ロボットプログラミング／3.校外活動(お花見)／4.e-ラーニング／5.フリーマーケットプロジェクト

法人エデュケーションエーキューブを
設立しました。

設立当初は、ICTを活用した小
中学生向けの学習塾事業を行って
ました。2015年には福岡市の事
業(福岡市子どもの学びと居場所つ
くり事業)を受託し、経済的困窮世
帯の子ども達の受け入れを開始、そ
の中で不登校の子ども達が増加し
ている実情を知ることとなりました。
子ども達と対話する中で、学校
以外の選択肢となる学びの場の必
要性を強く感じ、2017年からフ
リースクール事業を開始しました。
現在、学習塾事業は終了し、フリー
スクール事業を行っています。

★エデュケーションエーキューブが
取り組んでいる社会課題について
教えてください。

まず社会課題のひとつとしてあ
げられるのは貧困問題だと思いま
す。日本における子どもの相対的貧
困率は12%程ですが、ひとり親世帯
では45%程と、OECD諸国の中で
最下位レベルです。日本のひとり親

世帯の就労率の高いものの、就労収入だけでは貧困から抜け出せない「ワーキングプア」の状態にある世帯が多いといわれています。家庭の経済状況が子ども達に与える影響は大きく、学習や体験の機会、文化的資本へのアクセス格差に繋がり、生まれ育った環境が将来の可能性を制限しているのが現状です。

また、不登校の問題も深刻です。2023年度の小・中学校の不登校児童生徒数(年30日以上欠席)は全国で30万人超と、前年度から16%増加しています。そのうち約半数にあたる20万人弱が90以上の長期欠席者であり、義務教育を十分に受けられていない状況にあります。この背景には、学校の過剰な画一性や家庭環境の課題、子どもの発達特性など、複合的な要因が絡んでいます。不登校の原因は一様ではなく、個別の支援が求められる一方で、その対策が追いついていないのが現状です。さらに、不登校児童生徒の38%(約9万人)は学校内外で何らかの相談・指導等を受けられず、教育機会だけでなく心理的サポート

からも切り離され、社会から孤立した状態に置かれています。不登校児童を抱える家庭では不登校離職も増えており、企業にとっても軽視できない問題になっています。

経済的困窮世帯の子どもが不登校になると、問題はさらに深刻化します。フリースクール等の授業料には公的補助が乏しく、授業料全額が家庭負担となるケースがほとんどです。2024年の調査では平均授業料は月額50,000円超と保護者の経済的負担は深刻な状況です。結果、経済的事情でフリースクールを



不登校児童数の推移(福岡市・2023年度調査)

選択できない家庭が多く、経済格差が教育機会の格差に直結する現状となっています。

行政や学校は、不登校児童生徒への支援としてスクールソーシャルワーカーの配置、学びの多様化校の設置、別室登校、オンライン指導など、多様な対策を講じています。しかし、不登校児童生徒数の増加を抑制できておらず、これらの取り組みの認知度が低いことや、効果が限定的であることが課題です。最大の問題は、支援策の多くが学校復帰を目的としており、本来の目的である「子ども達は何を学ぶべきか?」という学びの本質的な視点が欠如していることです。子ども一人ひとりに最適な学びの機会を提供するためには、学校に戻ることだけをゴールとするのではなく、多様な学びの場を整え、それぞれの子どもにとって最善の選択肢を提示できる仕組みが大切だと考えています。

★フリースクールは不登校児童生徒の受け皿としての機能が期待されていると思いますが、どのような課題があるのでしょうか。



対談風景

不登校児童生徒の受け皿として期待されるフリースクールは、施設や運営に対する公的支援が乏しく、持続可能性が課題となっています。都市部の一部のスクールでは高額な授業料を設定することで持続可能な体制が取れている一方で、地方や小規模なスクールでは経営基盤が脆弱であり、地域や経済的背景による格差が生じています。その結果、現在のフリースクールは質と量の両面で不十分であり、特に経済的困窮世帯の子ども達にとっては、選択肢として機能していない現状があります。

急増する不登校児童を支えるフリースクール事業は、日本の教育システムの中で必要不可欠な存在に



草場代表

なりつつあり、「儲からない」けれど、「意義がある」事業です。しかし、その潜在的な価値に比して、支援体制が乏しく、持続が難しい事業です。社会全体で、すべての子ども達が経済的事情や家庭環境に関係なく安心して学べる環境を実現することが求められています。

OUR HISTORY 11年の挑戦と進化～学びの新たな形へ～

2024年 7月	プラットフォームビジネスへの取り組み強化
2022年 6月	NPO法人フリースクール風の里(福岡県行橋市)との業務提携、オンラインで風の里所属生徒の学習サポートを開始
2021年 4月	スタディブレイス オンラインコース始動
2020年10月	スタディブレイス春日原校(福岡県大野城市)開校
2019年 4月	スタディブレイス箱崎校(福岡市東区)開校
2017年 9月	スタディブレイス野方校(福岡市西区)開校／フリースクール事業開始
2016年 8月	福岡市より認定NPOの認定を受ける
2015～19年	福岡市子どもの学びと居場所づくり事業受託
2014年 4月	スタディブレイス伊都校(福岡市西区)開校
2013年 8月	NPO法人格取得、学習支援事業開始
2013年 4月	エデュケーションエキューブ活動開始

九州各県における不登校児童生徒数およびフリースクール数

	不登校児童生徒数 (30日以上欠席)	不登校児童生徒数 (うち、90日以上欠席)	フリースクール等 スクール数	構成比
福岡県	15,231	7,628	75	58.6%
佐賀県	2,010	1,180	7	5.5%
長崎県	3,081	1,677	6	4.7%
熊本県	5,353	2,778	17	13.3%
大分県	2,703	1,537	14	10.9%
宮崎県	2,399	1,531	2	1.6%
鹿児島県	3,821	2,227	7	5.5%
計	34,598	18,558	128	100.0%

出所：令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(文部科学省・2022年度調査)、フリースクール数は当法人調べ(2024年度調査)

★エデュケーションエキューブの

社会課題解決のためのアプローチが形になったものが「スタディブレイス」ですね。「スタディブレイス」はどのような場所になるのでしょうか。

私達は、学校に通えない子ども達を支援するため、2017年より「スタディブレイス」を福岡県内の拠点とオンラインで運営しています。「スタディブレイス」は、子ども達が新しい時代に、その子らしく幸せに生きていくために、必要な知識・スキル・マインドセットを得る学びや体験を提供するフリースクールです。公正な教育機会の実現を目指し、経済的困窮世帯を対象に寄付を集め一定の授業料を減免する独自の奨学制度を導入しています。過去10年間で、エデュケーションエキューブは738名の子ども達を支援し、学びの場を提供してきました。このうち247名が経済的困窮世帯の子ども達です。福岡県では希少な奨学制度を持つフリースクールとして、過去10年間で1,300万円以上を

支給しました。これらの支援を通じて、子ども達が社会で自立するための力を育む場を提供しています。対象は小学生から高校生までで、スタディブレイスに通うすべての子ども達が所属校の出席扱いとなるため、スタディブレイスを卒業し高校・大学等へ進学することも可能となります。

★所属校の出席扱いになるのはいですね。「スタディブレイス」での学びについて教えてください。

ICTツールを活用し、タブレットで学習課題を共有し授業毎に目標設定と振り返りを実施し、自分のペースで学習する個別最適化された学習環境を提供しています。基礎学力以外でも「知識」「スキル」「マインドセット」の3つを伸ばすことを大切に、子ども達の将来の可能性を広げるカリキュラムを実施しています。水曜日は「多様性の日」としてさまざまなプロジェクト学習に取り組んでいます。社会で活躍する大人から学ぶ「魅力的な大人プロジェクト」、



グローバルシチズンシップ教育(取材当日はボスニアについての授業)

グローバルな視点を育てる「グローバルシチズンシップ教育」を実施しています。また、プログラミングによる作品制作、起業ゼミの実施や月1回の校外活動など社会に出ていく上で必要な新しい学びと体験の提供にも注力しています。

★コロナ禍は教育現場も大変だったと思います。どう乗り越えられたのでしょうか。

コロナ禍を通じてオンライン授業も普及しましたが、スタディプレイス

は事業開始当初からeラーニングを活用した授業を行っていましたので、対面授業には制限があったものの、それ以外はオンラインを通じて通常通りの学びを提供することができました。ただ、コロナ禍が長期化したため、資金面での不安を少しでも取り除くべく、福岡銀行さんには資金面でサポートいただきました。

★「スタディプレイス」の卒業生は今どうしていますか。

学校に通えなくなると高校や大学に進学できないと思われるのが、スタディプレイスで学んだ後、難関大学に進学している子もいます。中古車販売に従事している子もいて、卒業後社会で活躍している姿を見るとこの事業のやりがいを感じます。また、塾に通っていた子で、現在はスタディプレイスのスタッフとなった子もいます。支援を受けた子ども達を支える側になっていることは今後も事業を継続していく上でとても嬉しく、心強く感じています。

★子ども達の活躍は何よりの励みになりますね。ただ、「スタディプレイス」のような場所はまだまだ少ないと思います。今後の展望について教えてください。

フリースクールを立ち上げたい人を支援する「プラットフォーム事業」を進めています。私達がこの7年で培ってきたノウハウを提供し、パートナーとしてスクール運営者に寄り添い、フリースクール運営をサポートする事業です。具体的にはオンラインでの学習サポート、魅力的なカリキュラムの提供、安定運営のための資金調達サポート、ICT端末の導入サポートなどを行います。当法人は2024年度の休眠預金活用事業(※)において資金分配団体に採択されており、2025年から福岡以外の佐賀・長崎・大分など、北部九州地域で学校以外の学びの選択肢が特に少ない地域への展開を進めていきます。このプラットフォーム事業を通じて、日本全国にいる学校に通えない子ども達が必要な学びや体験ができる場を増やしていきたいと

思っています。

※休眠預金活用事業：2018年施行の「休眠預金活用法」に基づき、預金保険機構に移管された10年以上出入金等の取引のない休眠預金を民間公益活動の促進に活用する事業。社会的な課題解決のための公益活動を行うNPOなどの事業資金に活用されている。

★子ども達の学びの機会が増えるといいですね。私達を含め地域社会ができることは何でしょうか。

子ども達と社会とつなげ、一人ひとりがその子らしく幸せに生き、社会に貢献できるようにサポートすることは、社会全体の喫緊の課題だと思っています。子どもへの教育は社会的投資であり、非常に高いリターンが期待できる投資だという研究成果もあります。



スタディプレイスの1日の流れ



左から瀧口部長、草場代表

子どもの貧困や教育格差というのは、すべての人が取り組むべき問題であり、社会全体で子ども達を支える仕組みづくりが重要だと思っています。これまでも企業や地域の皆さまからのご支援のおかげで子ども達に多くの学びの機会を提供することができています。教育支援への参画はSDGs

や企業のCSR活動にもつながり、認定NPO法人である私たちへの寄付へのご支援においては税制上の優遇措置も受けることができます。社会全体で支えるという意識のもと、ぜひ多くの方々と一緒に、「子ども達が自分らしく幸せに生きていける社会」の実現に貢献していきたいと思っています。

NPO法人エデュケーションエーキューブ

所在地 福岡市西区野方1丁目19-33

設立 2013年8月2日

代表理事 草場 勇一(子どもアドボカシーセンター福岡 監事)

副代表理事 佐村 礼二郎(エーアイキャピタル株式会社 代表取締役CIO)

事業内容 学校に通えない子どもたちの為のオルタナティブスクール(フリースクール)運営

スタディプレイス

■野方校：福岡市西区野方1-19-33

■箱崎校：福岡市東区箱崎6-14-18

■春日原校：福岡県大野城市筒井2-2-26

■オンライン校

寄付のご支援は
こちらから



スタディ
プレイス



インタビューを終えて



福岡銀行 執行役員審査部長 瀧口 宗寿

エデュケーションエーキューブが取り組んでいる経済格差をもたらす教育格差を是正するための活動は、私達が目指す、「経済的・物質的・精神的にゆたかな地域社会」を実現するために欠かせない活動の一つだと思っています。

今回の掲載をきっかけに、多くの方にこの教育格差という社会課題と、その課題解決に取り組んでいるエデュケーションエーキューブというNPO法人がいることを知っていただき、地域に良い循環が生まれるよう社会全体で応援していければと考えています。私もサポーターの一人としてこの活動を引き続き応援していきます。